

令和3年10月19日
校長 浦野 浩二

ふと気が付けば10月も半ば、ここ九州では気温の高い日が続き、なかなか秋の深まりは感じられませんが、それでも朝早く校内を歩くとひやりとする空気や冬に備えて準備する鳥たちのにぎやかなさえずりに季節の移ろいを感じさせられます。

みなさん元気ですか。早いもので今年も残すところ2か月半となりました。そろそろ今年の自分を振り返り、心新たに残りの令和3年を過ごしてほしいと思います。移ろう季節を肌で感じ気持ちを動かせば、昨日より少し前向きの自分が発見できるかも・・・

【人間死ぬまで発展途上人】

少し前の話になりますが、9月9日(木)1, 2年生を対象に企画された進路講演会が行われました。講師は(株)アウルズの代表取締役社長の本下彰子氏、とてもチャレンジ精神に富むバイタリティ溢れる方でした。これは私見ですが、その話の根底にあったテーマは「いかに自分を生かすか」ということだったのではないかと思います。自分の経験に基づいてあなたたちへ次のようなお話をされました。

○学生時代にやってきたこと

- ①友達をたくさん作る (宝物を増やす)。
- ②情報をたくさん蓄える(可能性の引き出しを増やす)。
- ③失敗をたくさんする (多くの学びを得る)。

○学生時代から現在に続いていること・・・①チャレンジ精神

②返事は「はい」か「YES」

○今のあなたたちにできること・・・①いろいろなことに興味を持つこと ②自分探しをすること

③興味のある本をたくさん読むこと

そして、まとめの君たちへのメッセージは、「人間死ぬまで発展途上人！可能性は無限大！」まさに「明日死ぬかのように生きよ。永遠に生きるかのように学べ。」ですね。

【ひとりずもう】

日曜の夕方6時といえば、もちろん「ちびまる子ちゃん」。わが家でもその漫画は、家族の愛読書の一つです。マイペースで楽観的、怠け者でお調子者、いつも怒られてばかり、かとおもえば相手の気持ちに寄り添い、何とか助けようとするお節介で世話焼き、おひとよしのまる子の姿になぜかほっとさせられます。その作者であるさくらももこさんが亡くなって、もう3年が経過してしまいました。さくらももこさんは、有名な漫画家であるとともにエッセイストとしても活躍されました。今回皆さんに紹介するのは、小学5年生のまる子が成長し、高校を卒業するまでを描いた「ひとりずもう」です。ある雑誌でこの本が紹介されていたので、是非私も皆さんに紹介したいと思いました。この「ひとりずもう」には思春期を迎えたまる子の不安や進路の悩みなどが繊細なタッチで描かれています。そして日常的な学校生活とともに一貫して描かれているのは、「どうやって自分の進路を決めるか」ということです。自分のやりたいことから目を背け、進路を決めきれないでいるまる子の転機となったのが、作文の模擬試験の採点者のコメントでした。そのコメントについてはネタバレとなるので書きませんが(下巻に出てきます)、その一言でまる子は自分の将来について覚悟を決めるのです。この本のまる子は現実の作者により近づいて描かれていることを考えると、もしその作文のコメントがなかったら、「漫画家さくらももこ」も「ちびまる子ちゃん」もこの世に生まれてないかもしれません。

友人の一言、先生方の一言、家族の一言。特に自信が持てずに迷い、悩んでいる青少年期の子どもたちに対して、大人がかける言葉の影響力の大きさに改めて気づかされます。自分の進路にどう向き合うかという意味でも君たちにも是非読んでほしいと思います。もともと同名のエッセイ本は図書館にあったのですが、漫画バージョンを読みたかったので無理を言って入れてもらいました。どうぞ、ごろりと寝転んで肩の力を抜いて読んでみてください。

